

2022年度 琉球・沖縄歴史に関する高校生の知識・意識アンケート（分析）

沖縄歴史教育研究会

I. はじめに

本会では、5年に一度「琉球・沖縄歴史に関する高校生の知識・意識アンケート」を実施しており、2022年はその年に当たる。調査は、2022年1月～3月に県内の全県立高校（59校）へアンケートを依頼し、対象は2学年とした。回答は48校（1491名）、普通高校（総合学科・通信制含む）34校、専門高校14校である。地域は北部地区から八重山地区まで、広く回答をいただいた。

アンケートの質問内容は先史時代から現代までの歴史的な項目を中心に、文化などに関する28項目を設けた。質問は、歴史文化に関する知識と関心や思いを問うもので、選択肢を5つ（うち5つめは「わからない」とした）設ける形式とした。但しいくつかの項目については、過年度実施の文言などから変更したのがある¹。

分析は、2012年度と2017年度の調査を併せ、比較して報告する。また、沖縄戦など近現代については、2020年度に本会で実施した「平和教育に関するアンケート」の結果も併せて報告する。

II. 分析

i. 全体の傾向など

2022年度は、歴史の知識を問う項目（1～25）で正答を選択した割合（以下、正答率）の平均は41%で、2012年度：39%、2017年度：37%と大きな変化はない。正答率の変化（歴史や文化を問う25項目）などは次のようになっている。

時代ごとの正答率の平均

- ・先史古琉球 44%、近世 30%、文化 47%、近現代 42%である²。

2022年度の正答率が60%以上のもの

- ・尚巴志、組踊、三線、平和の礎、米国ドル（正答の選択肢を記載、以下同じ）

正答率が30%に満たないもの

- ・舜天、1609年、おもろさうし、蔡温、伊波普猷、9月7日、1972年5月15日

わからないの選択が30%を超えるもの

- ・舜天、大津波、1609年、おもろさうし、蔡温

正答よりも誤答を選んだ割合が多い項目

- ・1609年では1629年、おもろさうしでは琉歌集、カジマヤーは88歳、伊波普猷では謝花昇、9月7日では6月23日

2012年度以降、正答率が上昇しているもの

- ・冊封、1609年、人頭税、組踊、ソテツ地獄、9月7日、1972年5月15日、交通方法変更

2012年度以降、正答率が下降しているもの

- ・港川人、紅型

以下、先史時代～古琉球時代、近世、文化（民俗・芸能・工芸）、近現代に分け、各質問項目について分析を行う。なお、選択肢に下線を付したものが正答である。

¹ 実施にあたり、質問形式や質問項目の配置を改めたものがあるほか、数値（米軍専用施設面積）には現状を反映させる修正を施した。また本報告においては便宜上、実際の質問文には付されているルビを省略したほか、選択肢番号に丸囲みを施すという操作を行っている。

² 時代等の区分は「ii. 各質問項目の分析」を参照。

ii. 各質問項目の分析

[先史時代～古琉球時代]

1 日本の旧石器時代を代表する旧具志頭村で発見された化石人骨の名称は何ですか。

- ① 山下洞人 ② 大山洞人 ③ ピンザアブ洞人³ ④ 港川人 ⑤ わからない

正答率は2012年度：70%→2017年度：68%→2020年度55%（以下、年度は省略）である。前2回が7割前後であったのに対して、今回は約5割と急に落ち込んでいる。一方で、わからないを選択した割合が26%と前回より高くなっている。

2 琉球最初の国王と伝えられる為朝伝説で有名な人物はだれですか。

- ① 英祖 ② 舜天 ③ 察度 ④ 金丸 ⑤ わからない

正答率は19%→24%→22%で、正答率が低い項目のひとつで、わからないとした割合も全体の中でも高い。

3 農耕のはじまる11世紀の末ごろから、中山・南山・北山が形成された時代を何といいますか。

- ① 王国時代 ② 小国家時代 ③ グスク時代 ④ 第一尚氏時代 ⑤ わからない

正答率は30%→35%→35%で、若干上昇している（2007年度は27%）。誤答の王国時代を選択した割合も若干上昇している。

4 1429年に三山を統一し、「琉球王国」を成立させた人物はだれですか。

- ① 尚円 ② 尚真 ③ 尚巴志 ④ 尚泰久 ⑤ わからない

人物を問う項目の正答率は低いが、尚巴志の正答率は69%と高く、全体の中でも正答率が高い項目である。ただし、2007年度：67%→2012年度：70%→2017年度：78%と上昇していたが、今回は10%近く下降している。

5 中国皇帝が「琉球国王」の称号を与えることを何といいますか。

- ① 進貢 ② 冊封 ③ 戴冠 ④ 拜命 ⑤ わからない

正答率は低いが、20%→29%→33%と上昇している。わからないとした率は33%→30%→25%と減少している。

16 次のなかで世界遺産ではないのはどれですか。

- ① 浦添城跡 ② 座喜味城跡 ③ 勝連城跡 ④ 今帰仁城跡 ⑤ わからない

正答率が46%→44%→49%と前回よりやや上昇している。

[学習のヒント]

港川人は、全体の中での正答率は低くないが、2012年度・2017年度が約70%であったのに対して55%と大きく下降した。近年、旧石器時代から貝塚時代初期に関する調査や研究がすすんでいることから、最新のニュース等を活用することで生徒の興味を高めることができる。

グスク自体は世界遺産の学習等で学んでいると思うが、グスク時代の正答率は低い。誤答の王国時代を選択した割合が増えているのは、「琉球王国時代」と混同していることも考えられる。また、浦添城跡（世界遺産でないもの）を問う設問で、宮古・八重山においてこの項目の正答率は27%であり、全体に比べると低く、わからないの選択は31%であった。このことから遺産（グスク）単体を取りあげる学習よりも、琉球国形成の流れを視点においた学習が有効と考える。

グスク時代のころは、「古琉球時代」や「大交易時代」ともよばれる⁴。「大交易時代」は、琉球が中国から冊封を受けたことも関わる。これは冊封の正答率が、20%→29%→33%と上昇しており、朝貢・冊封のしくみから、この時期の遺跡からなぜ多くの陶磁器が出土するか考察させるこ

³ 質問フォームで、選択肢「ピンザアブ洞人」を「ピンアザブ洞人」と誤って表記していた。こちらの確認不足をお詫び申し上げ、訂正いたします。

⁴ グスク時代・古琉球時代・大交易時代の呼称は、意味や時代の範囲はそれぞれ異なる。ここでは近世以前を指す時代呼称として用いている。

とができる。また、尚巴志の正答率が高いことから、人物を導入としてとりあげることが有効である。尚巴志の正答率は宮古・八重山でも 54%と低くなかったことから有効であると考えられる。オヤケアカハチなど宮古・八重山の人物をとりあげることにより、先にあげた琉球国形成の流れについての学習を深めることができる。

[近世]

7 1605年に野國総管が中国から琉球にもたらした食物は何ですか。

- ① サトウキビ ② イモ ③ ウコン ④ トウフ ⑤ わからない

正答率は51%→62%→52%で、これまで上昇していた(2007年度は49%)が2022年度は10%減少している。なお、野國総管の出生地にある嘉手納高校と近隣の読谷高校での正答率は73%であった。

8 薩摩が琉球を侵略したのは西暦何年ですか。

- ① 1609年 ② 1619年 ③ 1629年 ④ 1639年 ⑤ わからない

正答率は全体の中でも低いが7%→11%→14%と若干上昇している。わからないとした率は37%と多いが、2012年度:44%、2017年度46%に比べると減少している。ただし、その年が何年なのかわからない場合と、そもそも薩摩の侵略があったことがわからない場合が混在し、峻別ができないことも考えられる。

6 1771年に八重山で起こった大惨事とは何ですか。

- ① オヤケアカハチの乱 ② 鬼虎の乱 ③ 大津波 ④ 大暴風 ⑤ わからない

正答率は25%→21%→30%と低い。わからないとした率は前回より減少している。宮古・八重山地区をみると、正答44%、わからない20%である。オヤケアカハチの乱の選択が、全体で19%、宮古・八重山地区では24%である。オヤケアカハチが他の選択肢(誤答)より多い点は、近世に八重山で何らかのできごとがあったと知っているともみることができる。

10 近世琉球の宮古・八重山に課せられていた税を何といいますか。

- ① 離島税 ② 水産税 ③ 田畑税 ④ 人頭税 ⑤ わからない

正答率は22%→27%→36%と正答率が上昇している。宮古・八重山地区の正答率は53%である。

11 具志頭親方ともよばれ、三司官として活躍した人物はだれですか。

- ① 羽地朝秀 ② 蔡温 ③ 謝名利山 ④ 程順則 ⑤ わからない

正答率は14%→19%→19%、わからない41%である。他の選択肢(人物)も1~2割ほどおり、近世の人物についての知識に結びついていないと考えられる。

[学習のヒント]

正答率が50%を超えているのはイモのみで、他の正答率は低い。また、近世に関する項目の正答率の平均が30%と、他の時代に比べて極めて低い。

人物に関する設問は野國総管(設問自体はイモ)、蔡温の2項目である。野國総管は、儀間真常と併せてとりあげることが有効だろう。蔡温は設問中の他の3人とともに近世における重要な人物であることから、各人の事績を確認することで近世史の流れが理解しやすくなるだろう。例えば、1609年の薩摩の琉球侵略を謝名利山、その後の琉球の政治・思想について蔡温らを取りあげること、近世の流れが明確にとらえられる。また、1609年を豊臣秀吉や江戸幕府の外交などに関連づけることで、琉球・沖縄史を東アジアとの関わりで理解することができる。

さらに、具志頭親方がなぜ蔡温と呼ばれるのか、琉球の士(サムレー)階層には中国名(蔡温)と和名(具志頭親方文若)があることを理解させるとともに、それぞれの出自とかかわる門中について学習することで、生徒の興味も深まるのではないだろうか。

宮古・八重山の設問を2つ設けたがいずれも正答率は低い。同じ沖縄県内でも沖縄島の高校生

が宮古・八重山諸島の歴史を学ぶ機会が少ないことが考えられる。本アンケートでは久米島や奄美諸島に関する設問はないが、今後は各地域単位の歴史・文化を学ぶ手段を考える必要があるだろう。

大津波については防災教育にもつながり、そのためにも知っておきたい事項である。この項目は、地理や地学と連携することで学習を深めることができる。

「琉球処分」の語は適当でないとして、「廃琉置県」、「琉球併合」の語の提唱がある。学習の際は、単に“歴史用語の言い換え”としてではなく、「琉球処分」の語にどのような意味があるか考えさせることで、近世から近代の琉球・沖縄の位置づけを考えさせることができるだろう。

[文化（民俗・芸能・工芸）]

9 首里王府がまとめた12世紀ごろから17世紀ごろの古歌謡集を何といいますか。

- ① おもろさうし ② 琉歌集 ③ 中山世鑑 ④ 球陽 ⑤ わからない

正答率は26%→32%→18%と前回より減少している。わからないとした率はいずれも3割と変化はないが、誤答である琉歌集の選択はいずれの回でも3割を占めている。

12 玉城朝薫が中国の使節団をもてなすために創作した芸能は何ですか。

- ① 組踊 ② 狂言 ③ 三線音楽 ④ 沖縄芝居 ⑤ わからない

正答率は56%→57%→68%と上昇している。

13 三線はどこから伝えられましたか。

- ① 日本 ② 中国 ③ 朝鮮 ④ インド ⑤ わからない

正答率は71%→71%→69%と大きな変化はない。

14 紅型とは、どのような工芸品ですか。

- ① 焼物 ② 織物 ③ 染物 ④ 指物 ⑤ わからない

正答率が53%→52%→50%とやや減少している。

15 カジマヤーとは、数え年で何歳のお祝いのことをいいますか。

- ① 60歳 ② 73歳 ③ 88歳 ④ 97歳 ⑤ わからない

正答率は38%→39%→30%と今回は減少した(2007年は34%)。誤答の88歳(トーチ)が29%→33%→36%と増加しており、言葉として知っているものの正答に結びついていないことなどが考えられる。

[学習のヒント]

組踊・三線は国語や音楽、芸術鑑賞等で触れる機会も多いため、紅型や『おもろさうし』もこれらと併せて学ぶことが有効だろう。紅型やカジマヤーは、各地域の工芸や行事に結びつけることで、より地域を知ることにつながるだろう。

[近現代]

17 1879年に「琉球王国」を解体して沖縄県を設置した日本政府の政策を何といいますか。

- ① 琉球処分 ② 琉球分割 ③ 旧慣温存策 ④ 同化政策 ⑤ わからない

正答は43%→56%→44%と、前回に比べて12%減少している。2007年(41%)から2017年の調査での正答率は上昇していた項目であった。

18 第一次大戦後の不況がきっかけとなっておこった、沖縄の悲惨な状況を何といいますか。

- ① 貧乏地獄 ② 飢餓地獄 ③ 台風地獄 ④ ソテツ地獄 ⑤ わからない

正答率は28%→33%→43%と上昇してきている。わからないとした割合も22%と前回調査より減っている。近代以降の設問で、正答率が目にみえて高まった項目であるといえる。

19 沖縄学の父と呼ばれている人物はだれですか。

- ① 當山久三 ② 伊波普猷 ③ 謝花昇 ④ 太田朝敷 ⑤ わからない

正答率が19%→15%→15%と推移しており、全体の中で正答率が低い項目のひとつである。正答の伊波普猷よりも誤答である謝花昇とした回答がいずれの年でも多く、また、當山久三と答えた割合も16%と正答率を上回った。わからないと答えた割合も減っているが27%と高い割合である。

20 沖縄戦が公式（設問文では正式）に終結（沖縄の日本軍が降伏文書に調印）したとされる日はいつですか。

- ① 6月23日 ② 7月1日 ③ 8月15日 ④ 9月7日 ⑤ わからない

正答率は8%→12%→13%とゆるやかに上昇しているが、全体の中で正答率が低い項目のひとつである。慰霊の日である6月23日の回答（53%→48%→46%）から、この日を「沖縄戦が終わった日」と認識しているためと考えられる。

沖縄市では9月7日を「沖縄市民平和の日」と定めているが、同市内の高校でも正答率は17%と低く、「平和の日」が沖縄戦終結の日とは結びついていないようだ。

21 1995年に戦後50年の記念事業で建設されたモニュメントを何といますか。

- ① 平和の礎 ② 平和の碑 ③ 平和の石碑 ④ 平和の石板 ⑤ わからない

正答率は81%→83%→78%と高い水準で推移している。「平和教育」の象徴として「平和の礎」が取り上げられることや、「平和の礎」のある糸満市平和祈念公園での全沖縄戦没者追悼祈念式典開催が広く認知されていることが、高い正答率につながっていると考えられる。

22 米軍支配時代に沖縄で使用されていた通貨（1958年から復帰まで）は何ですか。

- ① 琉球ドル ② 米国ドル ③ 日本円 ④ 沖縄円 ⑤ わからない

正答は77%→78%→74%と全体の中で正答率が高い項目のひとつである。沖縄が戦後アメリカの統治を受けていた象徴として、使用されていたお金が米国ドルだったことが広く認知されていることが、高い正答率につながっていると考えられる。

23 沖縄が日本に復帰した年月日はいつですか。

この項目は、2012年度まで「1972年5月15日」を記述させる形式をとっていたが、2017年度に選択肢の形式とした。記述形式だった際の正答率は、2007年度11%、2012年度14%だった（わからない64%→62%）が、4択選択肢形式とした2017年度は47%となった。今回は1972年4月1日～8月31日⁵の中から正答をひとつ選ぶ形式とした。理由は以下の2点である。①本アンケート自体が復帰〇〇周年に5年に一度行っているものであり、沖縄が日本に復帰した年月日を答える設問は、他の知識を問う設問のなかでも重要な位置を占めている。そこで、知識の定着をみるうえでより有効な、記述式に近づけた形式を採用した。②2012年以前のアンケートでは記述式で答える形式であった。アンケートの継続性を考慮した場合、記述式に近づけるほうがのぞましいため、4択選択肢形式ではなく記述式に近づけた形式を採用した。その結果、今回アンケートでの正答率は22%であった⁶。2007年と2012年に比較して正答率は高まったが、高い水準であるとはいえない。5月15日が「慰霊の日」と違って休日でないこと、学校現場等で沖縄の本土復帰（日本復帰）に関する授業等が十分に行われていないこと等が、正答率が高まらない原因ではないかと推察される。

24 1978年7月30日（ナナサンマル）、復帰の総仕上げとして実施された事業は何ですか。

- ① 憲法施行 ② 通貨交換 ③ 時差変更 ④ 交通方法変更 ⑤ わからない

正答率は32%→33%→37%とゆるやかに上昇しているが、正答率は比較的 low、わからないとした割合も28%ある。一方で誤答の通貨交換が20%あり、ナナサンマルがどちらにあたるか、わかかっていなかったと考えられる。

25 沖縄には全国の約何パーセントの米軍専用施設（米軍基地）がおかれていますか。

- ① 約50% ② 約60% ③ 約70% ④ 約80% ⑤ わからない

正答率は50%→56%→49%と推移している。2017年のアンケートで半数を超えた正答率が、今

⁵ 質問項目の8月17日～8月31日については年が2021年になっていた。こちらの確認不足をお詫び申し上げます。

⁶ 5月15日以外には、6月23日、8月15日、4月1日がそれぞれ6%の生徒が選択していた。

回は2012年の正答率の水準に戻り、約半数の正答率であった。誤答の60%・80%の割合が16~17%あり、マスコミ等で比較的多く報道されていることが、正確な数値として認識されていないと推察される。

[学習のヒント]

近現代は、正答率の高い項目（平和の礎、米国ドル）とそうでない項目（伊波普猷、9月7日）に分かれた。特に近代（戦前・戦中）の正答率が低い点が共通するが、そのなかで、「ソテツ地獄」の正答率が前回調査と比較して10%上昇したことが目立つ。

近代の人物を問う項目では、正答の伊波普猷よりも誤答の謝花昇が多くなった（当山16%、伊波15%、謝花36%）。このことから、近代史と各人を結びつけて学ぶことが必要だろうと推察される。例えば、謝花昇・太田朝敷の2人を切り口にして「琉球処分」・琉球分割・旧慣温存策の3項目を用いて、近世末から近代（戦前）の沖縄の政治的状況を概観し、当山久三らによる移民の視点から社会状況、伊波普猷らによる沖縄学の研究（社会状況も併せて）を学ぶことができる。

平和の礎と9月7日（誤答とした6月23日）は、いずれも平和教育に関わるものである。沖縄戦が公式に終結した日（降伏文書の調印）の正答率が低い点は、平和学習が6月23日（慰霊の日）に合わせて行われていることも影響していると推察される。

このことを平和アンケートの「6月23日ー慰霊の日は何をもとに決められていますか」⁷の項目から考えると、この項目の正答（牛島司令官が自決した日）が、1995年23%→2000年34%→2005年30%→2010年36%→2015年45%→2020年55%と上昇しており、慰霊の日の基準となったできごとへの理解は高まっているといえる。しかし、実際は6月23日以降も戦闘はつづき、8月15日以後にも日本軍による住民虐殺がおこっている。また、“沖縄戦が始まった日”を4月1日とすると、それ以前の米軍の慶良間上陸とその後の集団強制死が抜け落ちてしまうことになり、沖縄戦の実相を考える上でもこうした点をしっかりと示す必要がある。

生徒の平和教育に対する意識として、平和アンケートでは「沖縄戦について学ぶ事をあなたは どう思いますか」⁸、「あなたが受けた今までの平和教育についてどう思いますか」⁹の項目を設けた。前者について、沖縄戦を学ぶことが「とても大切」と「大切なことである」の2つを合わせた回答は1995年92%→2000年91%→2005年91%→2010年92%→2015年94%→2020年96%と高い。後者のこれまで受けた平和教育が「とても有意義だった」、「良かった」とする回答は、1995年58%→2000年64%→2005年72%→2010年81%→2015年86%→2020年87%と上昇している。

6.23特設授業等の実施については各校で課題は多いようだが、沖縄戦を学びたいという生徒の意識・満足度は高いことから、それに応える教材作成などが引き続き必要である。

現代史は、沖縄の本土復帰（日本復帰）の正答率が22%、ナナサンマルの正答率が37%と低い が、他の設問の正答率は5割以上となっている。米国ドルの使用やナナサンマルを通して、復帰前の米軍統治について学ぶことができる。

平和アンケートで「あなたの家族・親族で沖縄戦について話してくれる人はいますか」で「いる」とする回答が約30%であったが、復帰前の沖縄について話すことができる人は身近にもまだ多いだろうから、地域の歴史を知るといった視点での学習につなげることができる。

[沖縄について]

26 沖縄におかれている米軍基地についてどう思いますか。

- ① 全面撤去すべき ② 整理縮小すべき ③ そのままでよい
④ もっと強化すべき ⑤ わからない

⁷ 質問項目は、a. 沖縄戦が終結した日、b. 日本軍が降伏文書に調印した日、c. 米軍が沖縄作戦の終結を宣言した日、d. 牛島司令官が自決した日、e. わからない

⁸ 質問項目は、a. とても大切、b. 大切なことである、c. とくに必要ないと思う、d. そんな過去の事は学ぶ必要はない、e. わからない

⁹ 質問項目は、a. とても有意義だった、b. 良かった、c. あまり興味をもてなかった、d. もっと内容を工夫してほしい、e. わからない

全面撤去・整理縮小を合わせて 60%→56%→57%と減っている。整理縮小は 46%→48%→48%とあまり変わらないが、全面撤去は 14%→8%→9%と 10%以下になった。これに対して、そのままでもよいが 21%→25%→24%とやや上昇し、わからないが 16%→15%→15%である。

27 沖縄の歴史や文化を学ぶことについてどう思いますか。

① とても重要 ② 重要 ③ あまり必要ない ④ 必要ない ⑤ わからない

とても重要・重要を合わせて 76%→78%→79%と高く、自らの歴史や文化を知りたいという高校生は多いといえる。

28 現在の沖縄で一番大きな問題は何だと思えますか。

① 環境問題 ② 基地問題 ③ 経済問題 ④ 福祉問題 ⑤ わからない

⑥ その他

回答率の高い項目は基地問題で 58%→45%→39%となっているが、2022 年度は 2012・2017 年度に比べて低くなっている。2022 年度の他の項目は、経済問題 26%、環境問題 16%、福祉問題 8%で、経済問題と環境問題が特に増加していることは、“子どもの貧困”が取り上げられていることや、これまで取り上げられてきた“沖縄の自立経済”と“都市化の進展による環境問題”が、なお大きな問題として高校生年代に認知されていると考えられる。

先にあげた基地の項目で、「全面撤去・整理縮小」が減っている点は、基地以外の問題（経済や環境）への注目が増えたというよりも、「そのままでもよい」がやや上昇し、「わからない」が一定の割合を示している。長引く県と国との対立など、混沌とした状況を反映しているのではないかと思われる。

2012 年度は他の 2 回に比べて「基地問題」とする回答が 58%ともっとも高かったが、同じ年の「全面撤去・整理縮小」とする回答は 60%と 2007 年の 65%よりやや減っており、2017 年の 56%は、2007 年に比べると約 10%減っている。2022 年の「全面撤去・整理縮小」とする回答は 57%と前回アンケート結果とほぼ変わらない。県内米軍基地の「全面撤去・整理縮小」を考えている高校生の割合は、少しずつ減っているといえる。

また、平和アンケートで「普天間基地の移設場所についてどう思いますか」¹⁰について、「国外・県外に移設すべき」は 2010 年 47%→2015 年 35%→2020 年 30%、「現在のまま普天間でよい」は 2010 年 15%→2015 年 21%→2020 年 16%で、「わからない」は 2010 年 33%→2015 年 36%→2020 年 44%となっている。

基地について平和アンケートと併せると、基地面積の理解度は高まっているが、これに対して基地の全面撤去・整理縮小とする回答は減っている。その傾向が顕著になっているといえる。1995 年と 2005 年が前後の調査に比べて高くなっているのは、少女暴行事件や沖縄大へのヘリ墜落事故の影響だろうと推察される。

米軍基地に対する高校生の意識は、調査時の社会状況などが影響すると考えられるが、いずれの調査でも関心は高いといえる。今後の沖縄のあり方を考える上でも、沖縄と基地について考えさせることが必要である。

設問 28 で その他 の回答（記述形式）には、コロナ関連、ヤングケアラーなどがあげられていた¹¹。

iii. まとめ

アンケートの結果から、2012 年に比べて正答率が上昇している項目が複数（約 10%上昇の項目が 6 項目）あり、琉球・沖縄史に関する生徒の知識が高まりつつあるといえる。

正答率が低下している項目（3 項目）のうち 2 項目が近世と古琉球に関するものである。また項目（種類）では、人名や年代を問う項目の正答率が低かった。

¹⁰ 質問項目（2020 年）は、a. 国外・県外に移設すべき、b. 辺野古に移設したほうが良い、c. 現在のまま普天間でよい、d. わからない（2010 年は、勝連沖合など県内がよい、の項目も入れていた）

¹¹ その他 には基地問題や経済問題などに含まれる回答も複数あったが、回答のとおり その他 として集計している。

学習のヒントでもとりあげたが、人名から沖縄の歴史的状况を概観したり、項目（「琉球処分」「沖縄の日本復帰」など）から、沖縄の歴史・社会・文化等に関する学びを深めたりすることができるだろう。

Ⅲ. おわりに

「沖縄の歴史や文化を学ぶことについてどう思いますか」の回答にあるように、沖縄の歴史・文化に対する高校生の興味・関心は高いことが分かる。

しかし、3回の調査での正答率（全体）の平均が変わらないこと、一般的に知られている項目での正答率は高く、琉球・沖縄史で知っていてほしい項目では正答率はあまり高くない、または低いとなっている点から、高校で琉球・沖縄史を十分にとりあげることができていない現状があるといえる。特に、現在の沖縄の状況を考える上で学んでおきたい近世から近代にかけての設問で正答率が低い点は、大きな課題といえる。また、“歴史的なできごとは知っているがその用語（人物名や年代）は知らない”のか、“歴史的なできごと自体を知らない”のか、十分に把握できていない点もあり、この点を明確にすることで適切な指導方法につなげることができる。ただ、これまでのアンケートにより、生徒の“知っていること”と“知らないこと”が明らかになったことで、どの事項に重点的な指導が必要なのか示すことができたと考えられる。

学校設定科目として沖縄の歴史に関する授業を設けていない学校では、琉球・沖縄史を歴史総合やその他の社会科科目、さらに他教科とのつながりを意識させることで、琉球・沖縄史への興味をもたせるきっかけをつくることができるだろう。

本会では、沖縄歴史検定の実施などをおして、生徒の興味・関心を高めるとりくみをすすめているが、各学校で琉球・沖縄史を体系的に学ぶための教材などを提示する必要があると考えている。実際に各学校で行われている実践例などの情報提供をいただければありがたいと考えている。

謝辞

今回のアンケートは次の高校にご協力をいただきました。教科指導など大変な中、アンケートを実施いただきありがとうございます。今回のアンケートをご活用いただければ幸いです。

【アンケート実施協力校】（沖縄県教育委員会発行の学校一覧の順、明記のない場合は全日。カッコ内は回答生徒数(不明3あり)）

辺土名高校(20)、北山高校(31)、本部高校(25)、名護高校(21)、石川高校(44)、前原高校(31)、与勝高校(48)、読谷高校(38)、嘉手納高校(41)、具志川高校(36)、美里高校(31)、コザ高校(全日(60)・定時(4))、北谷高校(39)、北中城高校(37)、普天間高校(4)、宜野湾高校(全日(35)・通信部(1))、浦添高校(29)、那覇国際高校(55)、陽明高校(12)、首里高校(40)、首里東高校(36)、開邦高校(34)、真和志高校(20)、小禄高校(13)、那覇西高校(67)、豊見城高校(19)、豊見城南高校(31)、南風原高校(31)、向陽高校(23)、知念高校(17)、糸満高校(40)、宮古高校(34)、八重山高校(23)、北部農林高校(定時(3))、中部農林高校(全日(13)・定時(11))、南部農林高校(16)、八重山農林高校(27)、名護商工高校(21)、美来工科高校(39)、美里工業高校(33)、浦添工業高校(36)、那覇工業高校(全日(33)・定時(1))、沖縄工業高校(20)、宮古工業高校(45)、八重山商工高校(全日(33)・定時(1))、那覇商業高校(全日(1)・定時(2))、宮古総合実業高校(30)、泊高校(午前部(34)・夜間部(17)・通信部(2))

以上、48校